

対話でつなく授業 ～自己肯定感を高めて～

岩瀬 竜弥



指導員訪問⑥ 5年 保健体育科

「ボール運動ゴール型『ハンドボール』」 小幡 隆洋 教諭



ボール運動が好きな子供たち。しかし、作戦を考えたり
連係プレイを意識せず、技能向上のための意見の出し合い
には消極的であることから、今回、「ハンドボール」を取り
上げました。ルールも比較的簡単で、ボールが小さくて扱
いやすく、誰もがシュートを打てるなど利点があります。
今回、仲間と意見を出し合いながら、シュート場面を作る
ために、空間をいかに生かしたプレ

イをする姿が見られるかどうかです。

小幡教諭は、小学生のころから人に教えることに、人と人のつながりに
魅力を感じ、高校時代には教員になりたいと夢を抱いていました。多くの
先輩方と出会う中で、人と接すること、体を動かすことのすばらしさを次
は自分が・・・の思いで、現在目の前の子供たちに熱く伝える日々です。

さて、本時では日本代表のビデオ視聴のあと、チーム内（兄弟）で3対
2のゲームを10回。ここでは、一直線上にならび、うまく



パスが通らない場面も。次に、
作戦ボードを使って動きの確
認をしました。その後、4対3
のゲームへと展開されました。

協議会では対戦の仕方や人
数、作戦ボードの有効性、マイ
タブレットの活用方法など熱
心に討論がされました。指導員

から自己肯定感を高めるために、「見える化」、「比較」と「振
り返り」が大切であることを教えていただきました。

私は、ビブス黄Cに着目。T1●で立ち止まった後、「ば
らけた方がいい」と動きを変えたのは不思議でした。「みんな
はどう？」とこの作戦で全体を揺さぶってみてはどうで

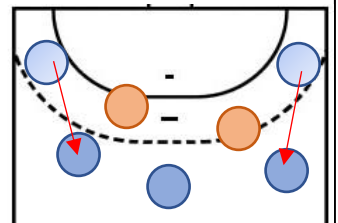
しょうか。各チームが比
較する中で、さらに自分
たちの特性に合った「空
間」を生かすプレイが生
まれるはず。そこで、黄
C・・・何とパスをもら
うために先にダッシュを！



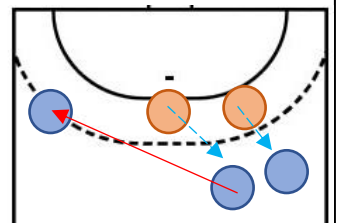
<グループ対話（作戦ボード）より>

※抽出のビブス黄Cグループから

①C・弟
バラバラ
↓
集まって



①C・兄
ひきつけて
↓
パスを



T1：●何のために磁石を動かすの
C2：点をとるため
T3：どうやってシュート場面を作
るの？1分確認して

②C兄弟で
←一緒に→
やっぱり
ばらけた方
がいい

